

## 「天地の造られる前から」

詩篇 第29篇1節～3節  
エペソ人への手紙 第1章1節～6節

説教 岡村 恒牧師

今日は花の日こどもの日でたくさんの花が並べられています。同じ種類の花でも1つ1つ異なっています。香りも微妙な違いがあるようです。多くの花が世界中にありながらそれぞれに違いがあるのは驚くべき神の業です。皆様も一人一人異なっています。これまで地上に人間が創られてからどれ程の人がいても皆違うのです。

旧約聖書の最初を見ると、「はじめに神は天と地とを創造された。」(創世記 1章1節)と書いてあります。そして聖書の終わりをみると、『やがて終わりが来る。』と記します。私たちは、今のこの時間を生きています。あらゆる物を神が深いご配慮の内にお創りになっている事に驚きます。花を見るだけで、神がどれ程多様な発想をお持ちかよくわかります。

今日はこどもの日です。アメリカでこの時期が年度の終わりに当たって、こどもたちへの祝福を祈ったのがその起源でした。私共の教会も教会に託されたこどもたち、世界に委ねられたこどもたちのために祈りを捧げます。私たちは神様に愛されているので、神様が大事にしている物を大事にしたいのです。神はこの天地宇宙を創り、それを愛し、保っておられます。それを私たちの手に委ねて賢く正しく治めなさいと言われました。そして日々新しい命を委ねて下さいます。

今日からエペソ人への手紙を読みます。生まれたての教会で行われた礼拝の言葉が書き留められているとも言われます。この書から祈りと讃美歌、信仰告白が溢れる様に響き出てきます。

私たちがここに居る理由は何故か。偶然や自分で決断をしたからではない、神様が招いて下さるから私は今ここに居る。この時代のこの場所に生きている。その理由は単純です。神様がこの世界を造り、あなたを創り、愛しておられるからです。世界が造られる前から、まだ時間の流れが始まらない時から、神がおられ、今日この日のこの礼拝にあなたがいる事をお定めになった。しかもそれは、主イエス・キリストによって定められたと聖書は書くのです。

自分の人生には自分の意志だけが関わっていると思ってきたら、主イエスが十字架にお架かりになる遥か以前から、『私の愛する子よ』と神に呼ばれてきたと聖書は語ります。この驚くべき知らせが福音です。この神の救いの計画が丁寧に練りあげられ、確実に実行され、完成を目

指してなお進んでいるのです。

私たちは聖堂を後にすると様々な事に遭遇します。学校に入る時に入学式があって、ある年を過ごす卒業式が来るものだと思います。しかし何かそこで事情が起これば終わりが来ない事が起こります。人間の歩む道は不確かであり、しかし神は始められた事を必ず完成して下さいます。神が約束された終わりが必ず来ます。それがいつ来るかは私たちには知らされていません。しかし必ず来る事は確実なのです。

天地をお造りになった神が私たち一人一人を選び、神をほめたたえる様にと定め下さった。終わりの日、神の国に場所を用意して下さいました。聖書はそう語ります。世界中の教会では日曜日ごとに「主イエスよ早く来て下さい」と祈っています。地上の喜びや楽しみなど、全く比較にならない程の恵みと喜びを味わう様になる。その時、私たちに委ねられたこどもたちが一人残らず共に神の国の食卓に着く様にと祈るのです。

まだ洗礼を受けておられない方に特に申し上げます。神の国の約束は本当に確実です。この約束を信じて生きる者は決して失望する事はない。代々のキリスト教会はその事を証してきました。

ペンテコステに大阪教会創立記念の礼拝を行いました。7人の信徒で始まったこの教会でありましたが、138年の間に多くの方が信仰を告白し、神の国の約束を握りしめて生き、地上の旅を終えていきました。今は教会から離れている、かつてのこどもたちも大勢います。私たちはそのこどもたちの為にも祈りたいと思います。

花の日と子供の日をこの時期に行うのは別の理由もあります。この時期はアメリカでも日本でも花の多い時期だからです。神は時を定めて花を咲かせます。同じ様に一人一人の人生に時を用意し神を信じる日を与えて下さいます。信仰を告白して生き始める時を与えて下さいます。今日、私たちは神の計画が人生を豊かに祝福するものである事を確認します。神は天地を造られる前から、あなたの救いの為に計画を用意し、イエス・キリストによって選んで下さいました。その選びに感謝を捧げ、神の招きに応えて、主をほめたたえて歩みましょう。

(記 説教要約奉仕者)